

長岡京市生活環境審議会の評価・意見及び市の考え方

長岡京市では、本計画を策定及び進捗管理を行う際に意見を求めるため、「長岡京市生活環境審議会」を設置しています。この審議会には、市民や事業者、諸団体と学識者等の委員が参加し、PDCAサイクル（計画し、実行し、チェックし、改善する仕組み）を運用しています。本計画の取り組み主体は行政ですが、それを行政自身で評価するのではなく、多様な主体が加わって評価します。

これにより、行政以外の視点でチェックをし、取り組みを改善していくことができます。この章では、審議会委員からの評価と意見をまとめるとともに、それに対する市の考え方について報告します。（※重複する意見や単純な質問・回答、個別事案についての意見は省略しています。）

記載内容は、会議を開催した令和7年9月26日時点の状況となっています。

■全体として

委員意見
◇審議会での意見の反映や今後のメッセージ性など含め、これだけきちんとした進捗管理をされていることに心からの敬意を表したい。
市の考え方
◇引き続き取り組みの見える化に努め、市民との情報共有を図っていく。

■啓発の成果として重要なこと

委員意見
◇啓発結果を図る指標について、「脱炭素をやらなければいけないと本当に認識している人」つまり「長岡京市で脱炭素はできるという実感を持っている人」の割合が増えたのか、ということが重要。どうやってデータを取るかという課題はあるが、重要なことだと考えているので、一緒に考えていきたい。
市の考え方
◇本当に人々の行動変容につながるような心の変化を与えたか、ということは啓発の成果として大変重要。そのような効果測定があればという思いは同じである。次年度から始動する（仮称）若者環境審議会にも関連することかと思う。一緒に考えていきたいと考える。

■5 ページに関連して「再エネの活用と創出について」

委員意見
◇福知山市、南丹市では、小中学校全て再エネ 100%という環境で子ども達は学んでいる。中高が長岡京市にある立命館でも、小中高は再エネ 100%ということになっている。ぜひモデル的なところ、教育的なところから踏み出してほしい。再エネ 100%の手法の一つである非化石証書の購入であるが、限られた量の取り合いが予想される。資料に書いていただいているとおり、非化石証書を購入するだけでなく、再エネをどう作るかということ考える必要がある。産業界

では、再エネを使っていないと取り引きができないという状況が迫っている中で、地域の産業で使う再エネをどう確保するかというのが課題となるのではないかと。公共施設だけでなく、地域の産業で使う再エネという視点も今後は必要ではないかと。

市の考え方

◇再エネの調達手法については、庁内で検討しているところ。様々な手法があり、それぞれに特徴があると認識しているので、お知恵もお借りしたいところ。産業界における活用という点も、非常に重要な視点をいただいた。事業者支援の部署とも情報共有を図る。

■13・14 ページに関連して「気候変動で増える災害への備えは」

委員意見

◇防災イベントを主催したが、市民等の防災意識は高いと感じる。長岡京市でも大災害が起こる可能性はある。対策を考えていただきたい。

市の考え方

◇防災の部署を中心に各種の施策を行っている。加えて、気候変動への「適応」という観点からも防災は非常に重要と認識している。気候変動を食い止める「緩和」の啓発を含め、防災と気候変動対策を関連付けた啓発が必要と考えている。市民の備えとしても、太陽光パネルが災害時には自立電源となるなど、防災と気候変動対策の関連は深いので、環境部署においても、そのような視点の啓発を行っていく。

■13・14 ページに関連して「避難所での再エネの活用について」

委員意見

◇福知山市では、いくつかの避難所になっているようなところでは、太陽光パネルと蓄電池、さらに電気自動車の蓄電池を建物に使えるシステムの導入を進めている。市民出資により行政の初期投資がない民間の力を活用したプロジェクトである。このような事例が広がることを望む。

市の考え方

◇避難所での電気（エネルギー）については、現在は発電機等による備えとなっている。中央公民館では電気自動車の蓄電池を建物の一部に使えるシステムを備えているが、再エネの活用というところ来说うと一部にとどまっている。事例については防災部署とも情報共有を図る。

■17 ページに関連して「環境に関する若者、子どもの学びについて」

委員意見

◇若者に向けた事業を始められるということに関連して。子どもはすごい力を持っている。保育所や幼稚園や小学校のような若い年齢の子にも、大切なことを分かりやすく具体的に噛み砕いた形で学び、関わってもらえる機会があればと思う。そうした経験が、自分で意見を言えることにもつながると考える。

◇ヨーロッパの視察において感じるのは、若者をいかに巻き込むかというのが当たり前にされているということ。保育園や幼稚園という若い年齢層に関しては、学ぶ建物自体がとても環境にやさしいということが挙げられる。行政が率先してそういった整備を行っている。そこでの生

活を通して環境について学んでいくということである。資料等を工夫して分かりやすく伝えることも重要であれば、接する環境づくりも重要ということである。

市の考え方

◇現在環境施策の取り組み成果を報告書という形でまとめているが、この結果のアウトプットという部分で、まだまだできる余地があるのではないかというヒントをいただいた。幼い頃に学んだことは大人になっても定着しやすいと考える。学びの環境についても、身近に触れているものが環境にいいものだ、それがやはり自分の中の基準になっていくと考える。公共施設のZEB化にも関連する話かと思うので、今後も必要な視点と考える。

■19 ページに関連して「普段意識しない『ごみの処理』について、もっと広く知ってもらってはどうか」

委員意見

◇ごみに関して四小が取り組んでいる生ごみコンポストのような事例を、他の学校にも広めてほしい。市のごみ収集についても普段意識しないかもしれないが、その仕組みの大切さをもっと知ってもらってはどうか。

市の考え方

◇生ごみコンポストの事例については、学校間で情報共有されている。環境教育に関しては、ごみやりサイクルのテーマを含め、各学校が創意工夫をして特色のある活動を行っているところ。その他、市環境業務課が出前授業という形でごみ行政について分かりやすく解説する取り組みも行っている。今後も引き続き、子ども達含め、市民の理解促進につながるよう啓発を行っていく。

■23 ページに関連して「シナチクノメイガの被害と高温の影響についての対策は」

委員意見

◇シナチクノメイガによる竹林の被害が大きく、たけのこの生産への影響を危惧している。また、高温被害が水稻にも出ており、近年の地球温暖化の影響が疑われる。広く皆に考えてほしい問題である。そうした中、対策について気にしている。

市の考え方

◇シナチクノメイガによる被害については、市としても大変懸念している。現時点で明確な駆除方法が分からないなど、生態がはっきりしていない。市では、農薬と噴霧器への助成を実施したり、被害等の実態を把握することも重要であることから、アンケート調査・集計を行う予定。その他京都府へ、対策についての緊急要望も行った。高温被害対策についても、気候変動への「適応」という観点から重要。こちらについても農業施策の方でしっかりと取り組んでいく。